



金型のCAD / CAM事業に特化し黒字化を目指す

◆グループ概要

昨年7月に、コンピュータエンジニアリング（以下CE社）とグラフィックプロダクツ（以下GP社）の2社が、経営統合して共同持株会社アルファホールディングスを設立し、今年で2期目である。2社とも金型業界にソフトウェアを提供する事業を展開し、CE社はプレス向け金型のCADに特化、GP社はモールド金型のCAMに特化し、市場の中でも重ならない良好な関係である。

昨年は、GPグループの中に赤字会社が多かったため、その整理に注力し最終の利益は6億39百万円の赤字となった。

CE製品としては、プレス向けのCAD、一部プレス用CAMシステム、生産工程全体を管理するシステム「AIQ」などがある。GP製品は、CAMに特化しユーザーの要望に合わせて「tools V3」、「tools VIS-A-VIS」、「tools MX」の3製品を用意している。主力は「tools V3」で、「tools MX」は同時5軸で制御できる工作機械に対応したシステムである。

◆第2期（2008年12月期）中間期の活動

前回3月の説明会では、第1期のトピックスとして、2社が経営統合してCAD / CAM事業に経営資源を集中し、赤字金型子会社2社、マネージメント効率化の目的で3社、シナジーが希薄な2社の合計7社を連結から外し再編を行った結果、当期純利益が6億39百万円の赤字となったことを報告した。

また、2期目については、グループ会社の統廃合を終えて、黒字会社だけの企業集団になり、CAD / CAM事業として、CE社は2007年12月にリリースした「EXCESS-HYBRID」、「AIQ-express」の本格展開、GP社は4月に部品加工向け「tools PARTS」をリリースし、11月に同時5軸のシステムを発表するという説明を行った。加えて、海外販売の強化、関連ソリューション事業の育成に向け、アジア地域での販売強化や上海事務所の共同運営も含め中国における販売とサポートを強化、共同チームでの開発受託にも注力する方針を報告し、第2期は売上高48億円、当期純利益1億20百万円を目指す計画を発表した。現在、共同チームの開発受託については大きな案件を受注し順調に進んでいる。

再編を終えた2期目のグループ組織は、アルファホールディングスの下にCE社・GP社があり、GP社の下にカナダの販売子会社、タイの販売子会社、米国で金型を受託して日本・韓国等で金型を製造し輸入する米国の金型受託会社があるという構成になっている。

中間期の拡販活動として、CE社は国内では「設計製造ソリューション展（東京）」に出展、海外では中国の大連、深圳、上海で製品セミナーを開催、タイの「Intermold 2008」への出展なども行った。

GP社は、国内では「Intermold 2008（大阪）」に出展、海外では上海事務所が「Die&Mould China」に出展した。

また、現在2社とも金型向けソフトウェアの提供が中心であるが、当社のコア技術を隣接市場にも展開したいと考えている。GP社では部品加工向けに位置決め5軸利用で、多方向からの加工を必要とする複雑な部品にも対応できる新製品「tools PARTS」をリリースした。4月に販売を開始し、上期の売上にはまだ貢献していないが、7～8月は売上に貢献し始めている。

◆第2期中間期連結業績

業績は、売上高23億47百万円（2月予想比3.1%減）、営業利益1億92百万円（同81.3%増）、経常利益1億94百万円（同57.1%増）、中間純利益は1億66百万円（同155.6%増）となった。中間純利益の上積み分約1億円の中には、昨年大阪の金型工場TriTechを売却した際の特別利益約74百万円が含まれている。

会社所在地別の売上業績は、CAD / CAM事業21億10百万円（前年同期比26.8%増）のうち、国内（CE、GP）20億2百万円（同33.0%増）、北米（GP CANADA）39百万円（同46.6%減）、アジア（GP ASIA）68

百万円（同18.6%減）で、国内2社が売上の大半を占めており、北米は不振であった。金型製造事業は、北米（Tritech LLC）1社のみで2億37百万円（同36.1%減）となっている。

営業利益は、CAD / CAM事業1億93百万円のうち、国内が1億90百万円、北米マイナス4百万円、アジア7百万円で、金型製造事業は、北米10百万円となっている。今年は黒字企業集団化を目指しているが、現状ではGP CANADAが赤字となっている。

仕向地別のセグメント売上を見ると、CAD / CAM事業では国内18億62百万円（前年同期比26.8%増）、北米40百万円（同50.3%減）、アジア2億3百万円（同29.5%増）、その他4百万円（同41.5%減）、金型製造事業は北米2億37百万円となり、アジアでのCAD / CAM事業が伸びている。

連結貸借対照表については、資産合計が前期末比3億26百万円減の64億75百万円、流動資産は、配当と昨年整理した金型子会社の未払金を支払ったため、同3億43百万円減の41億46百万円となっている。

キャッシュフローについては、営業活動によるキャッシュフローが1億1百万円、投資活動によるキャッシュフローがマイナス1億34百万円、財務活動によるキャッシュフローがマイナス1億51百万円となっている。現金および現金同等物は前期末比2億5百万円減少し、期末残高は20億26百万円となっている。

◆第2期通期業績予想

下半期は、引き続き国内およびアジアを中心に販促活動を強化して、12月には新製品を投入し、来期以降の業績に貢献できるよう事業に注力する。CE社は、国内では10月の「関西設計製造ソリューション展（大阪）」に出展予定で、海外では8月に中国で行われた「Bluenet 一華南日系製造業フォーラム2008」に参加した。GP社は、国内では世界3大工作機械展示会の一つである「JIMTOF2008」（10～11月）に出展を予定し、12月には新製品としてtools MX「同時5軸モジュール」をリリースする予定である。

金型の最大顧客は自動車で、次いで家電、雑貨の順である。金型に関連する業界の動向を見ると、自動車の国内新車販売台数は、原油価格高騰等の影響で3月、5月、6月、8月に前年割れとなった。新聞報道によれば、米国も8月は前年比15%ダウンの状況で、米国、日本とも新車の売れ行きが悪くなっている。

また、金型を製造する場合には、当社のソフトウェアを使って工作機械を動かし金属加工しながら金型加工をすることから、工作機械の状況からある程度金型業界の状況が分かる。日本の工作機械メーカーの受注状況は、6月、7月が前年割れで製造業の伸び悩みがうかがえ、1カ月分の金額が前年比164億円減となり、内訳では日本が59億円減で最も減っており、次いで米国43億円減、中国26億円減、欧州25億円減など、主要な市場からの受注が軒並み減っている。

当社のターゲットとなる金型業界の生産額は、1～3月はほぼ前年並みであったが、自動車業界の不振、鋼材高騰などの影響で、4～6月は大幅な前年割れとなっている。

このような状況下、下期も拡販活動を強化していくが、経済環境はさらに厳しいものと予想され、8月20日に通期業績予想の修正を行った。売上高は、2月予想48億円から3億円減の45億円（2月予想比6.3%減）、営業利益2億34百万円（同2.6%増）、経常利益2億36百万円（同5.6%減）、当期純利益は戻り益の影響があり2月予想比69百万円増の1億89百万円（同57.5%増）に修正した。

会社所在地別セグメント業績予想は、売上高がCAD / CAM事業39億97百万円で、そのうち国内37億81百万円、北米（GP CANADA）82百万円、アジア1億34百万円、金型製造事業は5億3百万円を見込んでいる。営業利益は、CAD / CAM事業で2億14百万円を見込んでおり、内訳は国内2億18百万円、北米は営業損失12百万円、アジア8百万円で、北米は最終的にも赤字になると懸念される。金型製造事業は23百万円を見込んでいる。

（平成20年9月4日・東京）